公益財団法人日本郵趣協会
2021年度事業報告（2021年4月1日～2022年3月31日）

【事業活動の総括】

公益財団法人日本郵趣協会は定款に基づき、郵趣を通して郵便切手文化の向上発展に資するとともに未来に継承していき、心豊かな潤いのある社会創造に寄与することを目的として活動を続け、2021年に創立75周年を迎えた。2021年度は日本郵趣協会の100年継続を目指し、「3F」のスローガン、すなわち、For the philatelic member、For the philatelic world、For the philatelic futureを掲げてスタートした。その後、「3F」のスローガンを実現するため、「郵趣の深耕」、「郵趣のダイバーシティ拡大」、「郵趣活動のバリアフリー化」の3つの柱を基本方針に掲げ事業を推進した。

2021年度は2020年度に引き続きコロナ禍で縮小せざるを得ない事業もあったが、徹底した感染症対策を行い、事業内容を工夫することで、計画された事業の多くをやり遂げることができた。また、例年にはない事業として、世界に広がる郵趣の世界を一般の方に知っていただく日本国際切手展2021（PHILANIPPON 2021）の主催（日本郵便株式会社、(公財）通信文化協会、(一社）全日本郵趣連合との共催)、東京2020大会をレガシーとして未来に継承するための郵趣品作成に携わったことが挙げられる。また、コロナ禍で需要が高まったタイムカプセル郵便も、前年度に続き大きな取扱量を記録した。2021年度に行なった事業では経費を抑える努力を重ねながら、一方で、例年にない事業を行うことや一部事業での需要の高まりで収益を確保し、経常増減に関しては当初予算を大きくプラスに転じる決算を報告できるに至っている。

日本国際切手展2021は「郵便150年 新たな可能性へ。」を開催テーマとして開催し、コロナ禍にも関わらず8,000人を超える来場者を記録した。特に、海外からの競争出品数が減った分を、日本郵趣協会の組織力で企画出品を集め、一般の方にも楽しめる国際切手展が実現できた点が特筆すべき点である。また、日本郵趣協会発行の文献が金賞２点を含む４作品で高位の賞を受賞し、日本郵趣協会の活動が世界的に高く評価されていることを広く知っていただくことができた。

この他、公益目的事業を達成するために、普及啓発事業、展覧会事業、出版事業、学術調査研究事業、国際文化交流事業、流通促進事業、顕彰事業、社会貢献・地域支援事業の各事業を行なった。これらの事業を推進するにあたり、その基盤力の強化として、「会員力の増強」「財政の安定」「よりよいイベント」という3つの柱を実現させるため、春と秋の入会キャンペーンを展開した。また、公益事業資金の造成として、パートナー・サポート企業・団体の募集、財政安定化寄附金、スタンプショウ2021寄附金、JAPEX2021寄附金、JPS創立75周年寄附金を実施した。

2021年に75周年を迎えた日本郵趣協会は、次のステップとして100周年を目指し、日本郵趣界の発展に資する活動を行なっていく。次年度である2022年度を100周年に向けた25年の最初の一年と位置付け、従来以上に活発な活動を推進すべく、郵趣の深耕、郵趣のダイバーシティ拡大、郵趣活動のバリアフリー化を基本方針として事業を推進していく。

Ⅰ　公益目的事業

1．普及啓発事業

万国郵便連合（UPU）加盟約190の国・地域から発行されている郵便切手類が持つ歴史、美しさ、芸術性といった文化的価値を広く社会一般に認識してもらうため、楽しみながら知ることのできる機会を創出した。また、郵便切手文化を次世代に継承するため、質の高い情報を積極的に提供するとともに幅広い分野で普及啓発活動や情報発信を実施した。

（1）「全国ミニ切手展」キャンペーン

年間を通じて、全国の郵便局、学校、博物館など公共施設を中心として、日本及び世界各国の郵便切手類を展示する「全国ミニ切手展」を263カ所（前年度191カ所）で開催した。特に4月の「切手趣味週間」（切手趣味週間の切手発行日から1週間）期間はキャンペーンを行い開催の促進を図った。実施テーマにあたっては、地域特性を活かした内容、タイムリーで話題性の高い内容等を選定し、郵便切手文化の普及啓発に努めた。

（2）展覧会来場者促進キャンペーン

登録支部・団体及びパートナー・サポート企業・団体との協働・連携の下、全国規模の展覧会への来場者促進キャンペーンを実施した。キャンペーンの取り組みとして、特典情報を掲載したチケット等の作成・配布、集客文化イベントを実施するとともに、広く情報発信を図った。

①スタンプショウ2021来場者促進キャンペーン

実施期間：2021年2月1日（月）～4月24日（土）［4月25日（日）は緊急事態宣言発令により中止］

キャンペーンはがき：配布枚数260枚、回収枚数：25枚（回収率9.6%）

②日本国際切手展2021来場者促進キャンペーン

新型コロナウイルス感染対策により、入場者の規制が行われたため実施しなかった。

③JAPEX2021来場者促進キャンペーン

実施期間：2021年9月1日（水）～11月7日（日）

キャンペーンはがき：配布枚数200枚、回収枚数：41枚（同20.5％）

③スタンプショウ2022来場者促進キャンペーン

実施期間：2022年2月26日（土）～4月24日（日）、キャンペーンはがき：配布枚数270枚、回収枚数：33枚（同12.2％）

（3）切手ワークショップ

郵便切手文化を学び、触れる楽しみを広げ、その社会的プロセスを通じてSDGs（持続可能な開発目標）の考え方を理解してもらうため、切手ワークショップを開催した。実施テーマにあたっては、初心者の人でもわかりやすく、親しみのもてる内容等を選択した。

①切手ワークショップ「入門コース・作品コース」

広く一般を対象にして、全6回、入門コース・作品コースを計画したが、新型コロナウイルス感染拡大により、開催は3回に終わった。

［6月度］内容：切手など郵趣品の話、予定日：6月19日（土）、［開催中止］

［9月度］内容：切手など郵趣品の集め方と整理の仕方、開催日：9月25日（土）、［開催中止］

［11月度］内容：マイリーフ作成ガイド、開催日：11月27日（土）、参加者：8名

［1月度］内容：マイリーフ作成実習、予定日：2022年1月22日（土）、［開催中止］

［2月度］内容：マイリーフ作成実習&アルバムリーフ作成、予定日：2022年2月19日（土）、参加者：9名

［4月度］内容：アルバムリーフの展示のみ実施、開催日：2022年4月22日（金）～24日（日）

②出張切手ワークショップ

A. 一般向け切手ワークショップinスタンプショウ2021

内容：体験！切手うちわ作り（切手はり絵）、世界の切手でしおり作り、切手缶バッジ&切手マグネット作り、開催日：4月23日（金）～4月25日（日）、会場：東京都立産業貿易センター台東館（台東区）、参加者94名。

B. 児童向け切手ワークショップ

内容：切手はり絵、切手しおり作り、ふるさと切手ラリー、開催日：7月21日（水）、会場：世田谷区立給田小学校（世田谷区）、［開催中止］

（4）郵趣入門ガイドブック

郵便切手類の入手・保存・楽しみ方についてわかりやすく解説した郵趣入門ガイドブックの2021年度改訂版及び新規版を制作してホームページに公開するとともに、全国規模の展覧会、地方本部主催の展覧会等において普及啓発活動を展開した。

①「郵趣スタートガイド～初めて郵趣を楽しむ方のために～」（2021年度版）
②「郵趣リーフ作成ガイド～初めてのトピカル・リーフ作り～」（2021年度版）
③「日本切手で始めるスタートガイド」（2021年度版）
④「知って得する切手入手ガイド」（2021年度版）
⑤「やさしい郵趣用語集」（2021年度版）
⑥「トピカル郵趣 作品制作ガイド」（新規制作）
⑦「テーマティク郵趣 作品制作ガイド」（新規制作）

（5）郵趣図書の普及促進

郵便切手類の歴史及び郵便制度の研究に必要な出版物を広く全国の公立図書館に配備・リクエストすることにより、地域市民の誰でもが郵便切手文化の学習活動に平等な機会が得られることを実現し、教育と文化の発展に寄与した。

（6）WEBサイト及びSNSの活用

情報公開の重要性に鑑み、切手発行情報、展覧会、出版物及び文化シンポジウム等に関する最新情報をホームページ及び公式SNS［Twitter（ツイッター）、Facebook（フェイスブック）、Instagram（インスタグラム）、YouTube（ユーチューブ）］に適時掲載し、広く社会一般に公開、提供した。また、Zoom（ズーム）を活用した切手のつどい等を開催し、幅広く社会一般に郵便切手文化の普及啓発を図った。

ホームページ総セッション：5,192千件（前年対比83%）、ツイッター総インプレッション：52,102千件（同121%）、フェイスブック・いいね！：6,736名（同106%）、ツイッター・フォロワー：72,462（同111%）、YouTubeチャンネル登録者数209名。

（7）全国郵趣大会

全国各地における郵趣活動の結びつきを図り、郵趣に関する情報並びに課題の共有・活用の推進を図るため、全国郵趣大会を開催した。併せて、郵便切手文化の普及啓発並びに学術調査研究に貢献した功労者の顕彰、文化シンポジウム等の企画イベントを実施するとともに、交流と親睦を深める記念レセプションを開催した。

①全国郵趣大会2021in横浜（第39回）&関東郵趣大会2021in横浜（第37回）

会期：8月28日（土）、会場：パシフィコ横浜アネックスホール（横浜市）、参加者76名、内容：記念式典、顕彰事業セレモニー、切手デザイナートーク、寄贈品オークション。企画運営：関東地方本部。

②全国郵趣大会2022in川越（第40回）&関東郵趣大会2022in川越（第38回）［準備作業］

会期：6月11日（土）、会場：川越プリンスホテル（埼玉県川越市）、後援：日本郵便（株）関東支社［予定］、企画運営：関東地方本部。

（8） 地方本部主催の「切手のつどい」

郵便切手文化に関する情報の発掘、収集を行うとともに、その結びつきを図り、地域市民の資源として共有・活用する基盤作りのため、誰でもが参加・交流できる「切手のつどい」の開催を計画したが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一部の開催を中止とした。

①防府切手のつどい2021春

会期：4月4日（日）、会場：デザインプラザHOFU［山口・防府地域工芸・地場産業振興センター］（山口県防府市）、参加者51名（前年度中止）、主催：中国・四国地方本部、防府支部

②福山切手のつどい2021春

会期：5月2日（日）、会場：まなびの館ローズコム［福山市生涯学習プラザ］（広島県福山市）、参加者50名（同中止）、主催：中国・四国地方本部、福山支部

③新潟県郵趣の集い2021in三条

会期：6月6日（日）、会場：三条商工会議所会館（新潟県三条市）、［開催中止］

④岡山切手のつどい2021

会期：6月27日（日）、会場：岡山国際交流センター（岡山市）、［開催中止］

⑤静岡県郵趣の集い2021in沼津

会期：7月3日（土）・4日（日）、会場：ホテル・エルムリージェンシー（静岡県駿東郡）、参加者20名（前回2019年度33名）、主催：中部地方本部、沼津支部

⑥防府切手のつどい2021夏

会期：8月1日（日）、会場：デザインプラザHOFU［山口・防府地域工芸・地場産業振興センター］（山口県防府市）、参加者45名（前年度52名）、主催：中国・四国地方本部、防府支部

⑦筑後地方切手のつどい2021

会期：8月22日、会場：小郡市生涯学習センター（福岡県小郡市）、［開催中止］

⑧関西郵趣家のつどい2021・切手だいすき集まれ！

会期：11月20日（土）・21日（日）、会場：エディオンアリーナ大阪［大阪府立体育会館］（大阪市）、参加者200名（同220名）、主催：関西地方本部

⑨防府切手のつどい2021冬

会期：11月28日（日）、会場：デザインプラザHOFU［山口・防府地域工芸・地場産業振興センター］（山口県防府市）、参加者58名（同51名）、主催：中国・四国地方本部、防府支部

⑩北九州切手のつどい2022

会期：2022年2月13日（日）、会場：北九州国際会議場（福岡県北九州市）、参加者40名（同中止）、主催：九州・沖縄地方本部、北九州支部、後援：日本郵便（株）北九州中央郵便局

⑪広島切手のつどい2022

会期：2022年2月26日（土）、会場：ホテルチューリッヒ東方2001（広島市）、［開催中止］

⑫春の関西郵趣家のつどい2022

会期：2022年3月26日（土）、会場：大阪市立社会福祉センター（大阪市）、参加者：59名（同59名）、主催：関西地方本部

2．展覧会事業

郵便切手類及び郵便制度に関する研究を発展させるとともに、作品を鑑賞することにより豊かな情操を養い郵便切手文化に理解を深めるため、展覧会を開催した。郵便切手文化の独自性と継承性を確立することで出品者及び参観者の高いモチベーションを維持し、文化シンポジウム・イベント等を企画・実施して

PR効果を高め、集客の増加を図った。また、積極的にパートナー・サポート企業・団体との協働プロジェクトを推進し、企画プログラムの充実、より多様なニーズに応えた。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一部の開催を中止とした。

（1）全国規模の展覧会

①世界切手まつり スタンプショウ2021（第45回）

世界各国の郵便切手類や郵便消印に関して楽しみながら知ることのできる展覧会として、企画展示「スポーツ切手大集合!」、「風景印90年」の開催、フリースタイル切手展2021、第22回トピカル切手展の作品を公募した。最終日の4月25日（日）は、新型コロナウイルスの感染拡大防止による東京都緊急事態措置等の要請により開催中止とし、3日間の開催予定が2日間に短縮となった。

開催テーマ:「何だか面白いぞ、切手！」会期:4月23日(金)・4月24日(土)、会場:東京都立産業貿易センター台東館(台東区)、来場者:1,400名(前年度550名)。特別協賛:日本郵便(株)、協賛:(株)伊藤園、(株)KADOKAWA、(株)鼓月、(株)ながとも、町田酒造(株)、(株)龍角散、ロック製菓(株)、協力:切手の博物館。競争出品:(1)フリースタイル切手展2021:25作品(同23作品）、(2)第22回トピカル切手展:16作品45フレーム(同25作品80フレーム）。切手商ブース:21店25ブース(同16店20.5ブース)。

②世界切手まつり スタンプショウ2022（第46回）[準備作業]

広く一般の方々に郵便切手文化を身近なものとして楽しんでもらえるように開催テーマを設定し、企画展示及び企画イベントの実施計画について運営準備を進めた。またパートナー・サポート企業・団体の協賛を募った。

開催テーマ:「世界の切手ワンダーランド、企画展示「切手に見る食の世界」、「鉄道開業150周年記念切手展」、「切手趣味週間切手発行75年」、「復帰50周年記念 沖縄切手展」の準備作業、会期：2022年4月22日（金）～4月24日（日）、会場:東京都立産業貿易センター台東館（台東区）、特別協賛:日本郵便（株）、協賛:（株）不二家他、協力:切手の博物館、郵政博物館、日本郵便切手商協同組合

③第56回全国切手展（略称:JAPEX2021）

郵便切手類と郵便制度の研究成果を発表するコンクール形式の展覧会として、招待出品「日本国際切手展2021 凱旋展」、企画出品「郵便創業150年 手彫切手とその時代」展の開催、チャンピオン・クラス、伝統郵趣、郵便史、ステーショナリー、航空郵趣、テーマティク、ユース、文献、ワンフレーム、オープン、その他の全11クラスの競争作品を公募した。本展覧会において金銀賞以上の賞を受賞した作品には、国際郵趣連盟（FIP）主催の国際切手展への出品資格が付与された。併せて、公式ガイドブック、記念出版物を発行して、研究発表の成果を広く一般に公開した。

開催テーマ:「郵便創業150年、郵趣の楽しみいつまでも」、会期:11月5日（金）～11月7日（日）、会場:東京都立産業貿易センター台東館（台東区）、入場者:3,000名（前年度2,400名）、後援: 東京新聞、協賛:日本郵便（株）、（株）伊藤園、えにし書房（株）、（株）鼓月、町田酒造（株）、（株）日本郵趣出版 、協力:（公財）通信文化協会、（一社）全日本郵趣連合

招待出品:「日本国際切手展2021 凱旋展」7作品56フレーム、企画出品:「郵便創業150年 手彫切手とその時代」9作品56フレーム、競争出品:98作品303フレーム（前年度104作品330フレーム）。外国郵政ブース:3カ国（エストニア、チェコ、フランス）、切手商ブース:24店29.5ブース（同21店27.5ブース）。

④第57回全国切手展（略称：JAPEX2022）［準備作業］

郵便切手類及び郵便制度に関する研究をさらに発展させるため、企画出品及び文化シンポジウムの実施計画について運営準備を進めた。

開催テーマ：「次世代につなげる 郵趣でつながる希望」、企画出品：「富士鹿切手発行100年展」、「国体切手発行75年展」、「アメリカ切手発行175年展」の準備作業、会期：2022年11月4日（金）～11月6日（日）、

会場：東京都立産業貿易センター台東館（台東区）、協賛：日本郵便（株）他、協力：（公財）通信文化協会、（一社）全日本郵趣連合、日本郵便切手商協同組合［以上予定］

（２）地方本部主催の展覧会

①スタンプショウ高松2021（第12回）

会期：4月24日（土）・25日（日）、会場：アイパル香川（香川県高松市）、［開催中止］

②スタンプショウくだまつ2021

会期：6月19日（土）・20日（日）、会場：スターピアくだまつ［下松市文化健康センター］（山口県下松市）、［開催中止］

③大阪切手まつり2021（第23回）

会期：7月17日（土）・18日（日）、会場：大阪駅前第3ビル（大阪市）、来場者：250名（前年度260名）、切手商ブース：10店10ブース（同8店8ブース）、主催：関西地方本部。

④スタンプショウ-ヒロシマ2021（第38回）

会期：9月11日（土）・12日（日）、会場：広島県立産業会館（広島県広島市）、来場者：190名（前回2019年度800名）、主催：中国・四国地方本部、スタンプショウ＝ヒロシマ実行委員会、後援：日本郵便（株）中国支社、（特非）郵趣振興協会。企画展示：東京2020オリンピック、企画イベント：切手なんでも鑑定・相談コーナー、笑い文字コーナー。

⑤彩PEX2021（第22回）

会期：9月25日（土）・26日（日）、会場：ウェスタ川越、来場者：200名（前年度50名）、主催：関東地方本部、川越支部、後援：日本郵便（株）川越郵便局、川越市教育委員会、埼玉新聞、埼玉県郵趣連合。

⑥スタンプショウかごしま2021（第24回）

会期：10月2日（土）・3日（日）、会場：サンプラザ天文館（鹿児島市）、［開催中止］

⑦スタンプショウはかた2021（第32回）

会期：10月16日（土）・17日（日）、会場：TKPカンファレンスシティ博多（福岡市）、来場者：191名（同180名）、主催：九州・沖縄地方本部、福岡支部、後援：日本郵便（株）九州支社、福岡市教育委員会、RKB毎日放送、九州朝日放送、FBS福岡放送局、TVQ九州放送、テレビ西日本、読売新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、西日本新聞社。特別展示：書状10円期の記念特殊切手、企画イベント：収集相談。

⑧大阪秋の切手展2021（第9回）

会期：10月23日（土）・24日（日）、会場：京セラドーム大阪「スカイホール」（大阪市）、来場者：250名（同250名）、主催：関西地方本部、後援：日本郵便（株）近畿支社。企画展示：スポーツ切手。

⑨中部スタンプショウ2021in名古屋（第20回）

会期：10月30日（土）・31日（日）、会場：第一アメ横ビル（名古屋市）、来場者：150名（同220名）、主催：中部地方本部、名古屋支部、後援：日本郵便（株）名古屋郵便局。記念講演会：「初期のふるさと切手」、講師：榎沢祐一氏。

⑩関西スタンプショウ2022（第35回）

会期：2022年3月12日（土）・13日（日）、会場：大阪駅前第3ビル（大阪市）、［7月の大阪切手まつりと合同開催したものとし計画取消］

（３）展覧会への出品促進

競争作品を公募するコンクール形式の展覧会への出品を促進するため、あらゆる機会を活用した周知活動を行うとともに、出品公募前に出品物の添削・助言等を行い、審査結果発表後に出品者への助言の機会を設けた。

①フリースタイル切手展、トピカル切手展の応募要項を作成し、出品希望者への配布及びホームページ

において公開した。

②「JAPEX2021ルールブック」（JAPEX2021開催概要、JAPEX2021特別規則、JAPEX一般規則、JAPEX審査基準、JAPEX出品に関するQ&A等）を作成し、出品希望者への配布及びホームページにおいて公開した。

③新規出品者の育成及び出品コンサルティングの実施

当協会事務局での対面及び通信添削において、作品コンサルティングを実施した。JAPEX新規出品者：5名（前年度12名）、出品コンサルティング利用者：9名（同10名）。

④クリティーク（審査員と出品者との対話）の実施

実施日：11月7日（日）、会場：第56回全国切手展JAPEX2021〔東京都立産業貿易センター台東館（台東区）〕、参加者：20名（同13名）。

⑤応募作品のデータベース化

直近10年間のJAPEX出品者の入賞記録をデータベース化し、全国切手展の審査において活用した。

（4）公認審査員制度と審査員の育成

コンクール形式の展覧会において適正な判定と円滑な運営を行うため、公認審査員制度を活用して国内審査員の育成を図った。また、11月7日（土）に国際切手展郵趣セミナー『イントロダクトリーページとシノプシス』を開催し、世界の展覧会の潮流と審査の状況を審査員及び国際展出品有資格者と共有した。

3．出版事業

郵便切手類及び郵便制度に関する情報を社会一般に広く供するため、万国郵便連合（UPU）加盟約190の国・地域から発行されている郵便切手類に関する内容、意匠、データ並びに郵便制度に関する研究を基にして、各種出版物を発行した。

（1）書籍及び研究報告書

①郵趣モノグラフ

「重量便使用例の分類と収集2　昭和・新昭和切手の使用例」（7月15日刊行）

②『日本国際切手展2021 凱旋展作品集』（2022年3月20日刊行）

③創立75周年記念出版『戦後の日本郵趣史』［刊行準備作業］

④研究報告書

（2）定期刊行物

①切手を楽しむ雑誌『郵趣（YUSHU）』 月刊／12回発行

②週刊速報紙『郵趣ウィークリー』週刊／50回発行

③郵趣専門誌『郵趣研究（The Philatelic Studies）』 隔月刊／6回発行

④WEB版『世界新切手ニューズ』月刊／12回配信

⑤WEB版『郵趣ウィークリー』週刊／50回配信

⑥WEB版『郵趣研究』隔月刊／6回配信

（3）切手カタログ

①『さくら日本切手カタログ2022』（4月20日刊行）

②『新中国切手カタログ2022』（12月25日刊行）

③『JSCA 1871-1876 手彫切手編』［刊行準備作業］

4．学術調査研究事業

郵便切手類及び郵便制度に関する情報（データベース）などを基に学術調査研究を行い、その研究成果を

広く社会一般に還元するため、活動事例紹介、研究発表会〈ミニペックス〉、郵趣カンファレンス、文化シンポジウム等を開催し、広く一般に知的情報の公開・周知を図った。

（1）研究会

専門分野別に研究会を設置して学術調査研究の充実・発展を図るとともに、未分野の研究会設置を促進した。全国規模の展覧会においては、誰でもが参加できるブース形式またはディスカッション形式により、各研究会の活動事例紹介を実施した。

①第56回全国切手展 JAPEX2021

会期:11月5日(金)～11月7日(日)、切手の集い:5研究会、延べ参加者:44名。

（2）研究発表会(ミニペックス)

研究会による学術調査研究成果の発表会を「ミニペックス」と称して、切手の博物館(豊島区)において広く一般に公開したが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一部の開催を中止した。

①昆虫切手研究会創立50周年記念 第35回昆虫切手展

会期：6月4日(金)～6月6日(日)、研究発表：昆虫切手研究会、［開催中止］

②第11回世界の植物切手展

会期：6月18日(金)～6月20日(日)、研究発表：植物切手研究会、［開催中止］

③イギリス切手研究会切手展2021

会期：6月26日(土)・27日(日)、来場者:120名(2019年度260名)、研究発表：イギリス切手研究会

④アメリカ切手展2021 america'21

会期：7月2日(金)～7月4日(日)、来場者:100名(同320名)、研究発表：アメリカ郵趣研究会

⑤JPS航空郵趣研究会展2021－航空機の風景印－

会期：9月25日(土)・26日(日)、来場者:180名(前年度240名)、研究発表：航空郵趣研究会

⑥第18回震災切手と震災郵趣展

会期：10月1日(金)～10月3日(日)、来場者:100名(前年度110名)、研究発表：震災郵趣研究会

⑦第19回絵画切手展

会期：10月23日(土)・24日(日)、来場者:190名(2019年度340名)、研究発表：絵画切手研究会

⑧ストラヴンスキー没後50年記念音楽切手展

会期：10月30日(土)・31日(土)、来場者:180名(前年度280名)、研究発表：音楽切手研究会

⑨第7回関東郵趣サロン 楽しい切手展

会期：11月19日(金)～11月21日(日)、来場者:210名(初開催)、研究発表：関東郵趣サロン研究会

⑩パソコン郵趣切手展2022

会期：2022年1月8日(土)・9日(日)、研究発表：パソコン郵趣研究会、［開催中止］

⑪第20回ドイツ切手展 Germania2022

会期：2022年1月21日(金)～1月23日(日)、来場者:210名(2019年度220名)、研究発表：ドイツ切手研究会

⑫菊・田沢MINIPEX2022

会期：2022年3月4日(金)～3月6日(日)、来場者:150名(2018年度230名)、研究発表：菊・田沢切手研究会

⑬第13回テーマティク研究会切手展

会期：2022年3月12日(土)・13日(日)、来場者:180名(前年度はオンライン開催)、研究発表：テーマティク研究会

⑭第14回聴覚障害者切手研究会切手展

会期：2022年3月13日（土）・14日（日）、来場者：140名(2018年度230名)、研究発表：聴覚障害者切手研究会

（3）研究公開

郵便切手文化に関する研究事例、実践事例等の専門的知識・知見を幅広く共有するため、各専門研究会会報にとどまらず全国専門誌、ホームページ等において公開発表した。

①『郵趣研究』における研究公開

「第1次動植物国宝図案50円の定常変種と版分類の試み」「税済印を使用した郵便制度」「山東鉄道『鉄郵印Type2』の謎に迫る」「昭和毛紙切手について」など多くの研究論文を公開した。

②ホームページにおける研究公開「私の切手アルバム」

毎月バラエティに富んだ切手コレクション1作品を協会ホームページに掲載し、広く一般に専門収集の実践例を紹介した。

③研究会会報及び研究会ホームページにおける研究公開

各研究会発行の会報、及び各研究会作成のホームページにおいて、様々な分野の研究成果の公開を行った。

（4）郵趣カンファレンス

各専門分野の先進学術事例の調査研究を進めるとともに、この知見を相互に有効活用するため郵趣カンファレンスを開催した。

①1920年頃のアメリカ切手の凹版印刷

会期：7月3日（日）、スピーカー:小林伸佳氏（アメリカ郵趣研究会）、聴講者5名、会場:切手の博物館（豊島区）

②ドイツの葉書

会期：2022年1月23日（日）、スピーカー:石黒忠稔氏（ドイツ切手研究会）、聴講者9名、会場：切手の博物館（豊島区）

③膠州湾租借地と山東鉄道沿線の郵便史（1898～1949）

会期：2022年3月6日（土）、スピーカー:福田真三氏（菊・田沢切手研究会）、聴講者22名、会場：切手の博物館（豊島区）

（5）文化シンポジウム

講演会、パネルディスカッション、トークショー等の形式により文化シンポジウムを開催し、知見の交換を図るとともに多くの人が参加できる機会を創出した。

①会期：4月23日（金）・4月24日（土）、会場：スタンプショウ2021／東京都立産業貿易センター台東館（台東区）。［最終日4月25日（日）は東京都緊急事態措置等の要請により開催中止］

A. 研究発表「植物切手・図案別収集の展開」、講師：石田徹氏（植物切手研究会）、聴講者15名。

B. 講演会「郵便が語る台湾の日本時代50年史」、講師：玉木淳一氏、聴講者25名。

C. 講演会「切手でたどる郵便創業150年の歴史 戦前編」、講師：内藤陽介氏、聴講者35名。

D. トークショー「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会切手」、ゲスト：玉木明氏（日本郵便（株）切手デザイナー）、聴講者35名。

②会期：8月28日（土）、会場：全国郵趣大会2021in横浜&関東郵趣大会2021in横浜／パシフィコ横浜アネックスホール（横浜市）。

A. トークショー「和紙シール切手制作秘話」、ゲスト：貝淵純子氏（日本郵便（株）切手デザイナー）、聴講者60名。

③会期：11月5日（金）～11月7日（日） 、会場：第56回全国切手展JAPEX2021／東京都立産業貿易センタ

一台東館(台東区)。

A. 研究発表「米国1922年シリーズ2￠ワシントン切手の定常変種」、講師:小林伸佳氏(アメリカ郵趣研究会)、聴講者20名。

B. 講演会「手彫切手とその時代展　開館120年を迎える郵政博物館の秘蔵資料」、講師:井村恵美氏、聴講者40名。

C. 講演会「切手でたどる郵便創業150年の歴史Vol.2 戦後編」、講師:内藤陽介氏、聴講者45名。

D. 講演会「PHILANIPPON2021 JURY SECRETARYとしての感想(審査総評と今後の国際展展望)
講師:佐藤浩一氏、聴講者55名、会場:東京都立産業貿易センター・台東館(台東区)。

E. 講演会「アフガニスタンと切手」、講師:内藤陽介氏、聴講者30名。

F. トークショー「切手のウラ側～2021年の切手から～」、ゲスト:玉木明氏(日本郵便(株)切手デザイナー)、聴講者65名。

④会期:12月24日(金)、会場:切手の博物館のクリスマス／切手の博物館(豊島区)。

A.トークショー「冬のグリーティング切手」、ゲスト:星山理佳氏(日本郵便(株)切手デザイナー)、聴講者20名。

(6) 展覧会助成

郵趣分野における研究の発展並びに普及啓発の観点から、社会的要請及び将来の発展が期待できる研究課題の発表・公開に対して展覧会助成を実施した。[会場はいずれも切手の博物館]

①日本・ポーランド国交樹立100周年 記念切手原画展
会期:4月9日(金)～4月11日(日)、来場者160名、主催:(社福)福田会

②魚木式郵趣展
会期:4月30日(金)～5月2日(日)、主催:魚木五夫氏、[開催中止]

③稲門フィラテリー20周年記念切手展
会期:11月12日(金)～11月14日(日)、来場者220名、主催:稲門フィラテリー

④第17回中国郵票展
会期:2022年1月29日(土)・30日(日)、来場者130名、主催:福井和雄氏

5. 国際文化交流事業

日本と海外諸国・地域との文化活動の交流を図り、友好関係と相互理解を増進するため、自国の歴史・文化を伝える「小さな外交官」と形容される郵便切手類を通して、国際文化交流を推進した。

(1) 各国外交機関及び各国郵政機関との協働による国際文化交流

各国外交機関による周年記念事業認定のもと、文化シンポジウム・イベント等を企画・実施してPR効果を高め、国際文化交流の活性化に努めた。

①日本・ポーランド国交樹立100周年記念切手原画展
会期:4月9日(金)～4月11日(日)、会場:切手の博物館(豊島区)、後援:外務省、駐日ポーランド共和国大使館、ポーランド広報センター、日本赤十字社、敦賀市、協賛:ポーランドヴロツワフ美術大学。ポーランド記念切手原画、ポストカードに採用された応募作品等。

(2) 国際切手展における国際文化交流

国際切手展の視察、国際郵趣セミナー等の参加を通じて、海外諸国・地域の郵趣家とのネットワークの形成・強化を図るとともに、国際文化交流を契機とした新たな郵便切手文化の研究推進を計画したが、いずれも新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催延期となった。

①バーチャル国際切手展「VIRTUAL STAMPEX 2021」へのブース出展、文献出品・頒布、チャット交流、

研究発表

会期:2021年3月25日(木)～3月27日(土)、オンデマンド:2021年3月28日(日)～4月28日(水)、主催:郵趣取引協会(THE PHILATELIC TRADERS' SOCIETY Ltd.)

②アジア国際切手展「PHILANIPPON 2021」への文献出品、視察、研究発表

「日本切手専門カタログVol.1～Vol.3」が金賞、「JSCA 1876-1908 小判・菊切手編」が金賞、「さくら日本切手カタログ2022」が金銀賞、「『郵趣』2020合本」が大銀賞をそれぞれ受賞した。会期:8月25日(水)～8月30日(月)、会場:パシフィコ横浜(横浜市)

③国際切手展「CAPE TOWN 2021」への文献出品、視察、研究発表

会期:11月9日(火)～11月13日(土)、会場:ケープタウン国際会議場(南アフリカ・ケープタウン)、[2022年11月8日(火)～11月12日(土)に延期]

④国際切手展「LONDON 2022」への文献出品、視察、研究発表

「日本切手専門カタログVol.1～Vol.3」を出品し金銀賞を受賞した。会期:2022年2月19日(土)～2月26日(土)、会場:ビジネス・デザイン・センター(イギリス・ロンドン)、

(3) 日本国際切手展2021 (PHILANIPPON 2021)

郵便切手類と郵便制度の世界的先進学術事例を広く公開するとともに、日本の郵便制度150周年を契機に郵便切手文化のより一層の普及・拡大を図るため、「日本国際切手展2021」を第37回アジア国際切手展として開催した。その成功に向けて、共催団体及びパートナー企業・団体と協働して、実施計画の策定・推進にあたった。

名称:日本国際切手展2021 (PHILANIPPON 2021)

開催テーマ:「郵便150年 新たな可能性へ。」、会期:2021年8月25日(水)～8月30日(月)、会場:パシフィコ横浜／展示ホールB・C(横浜市)、入場料:無料、来場者8,131名、主催:日本郵便(株)、(公財)通信文化協会、(一社)全日本郵趣連合との共催、後援:総務省、外務省、文部科学省、観光庁、神奈川県、横浜市、アジア郵趣連盟(FIAP)、(一社)横浜青年会議所、FMヨコハマ、神奈川新聞社、tvk、、日本郵便切手商組合、日本郵政グループ、認定:国際郵趣連盟(FIP)、運営:日本国際切手展2021組織委員会。

招待出品:(1)皇室展示(皇室に因む記念切手の原版、試刷、シリンダー、高円宮妃殿下所蔵FDC)、(2)コートオブオナー(7作品40フレーム及びジュエリーケース2台)、競争出品:29の国・地域から194作品558フレーム(うち文献98作品)、非競争出品:68作品186フレーム、企画出品:(1)「小さな切手が世界をつなぐ」32フレーム、(2)「世界のオリンピック・パラリンピック大会切手」8作品38フレーム、(3)「切手ワールド・トピックス」60フレーム、(4)「国別・テーマ別切手コレクション」101作品264フレーム、外国郵政ブース:8の国・地域(カナダ、スロベニア、チェコ、フィンランド、ポルトガル、マカオ、リヒテンシュタイン、国連)、切手商ブース:8店9ブース、文具マルシェブース:13店13ブース。

(4) 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会 (東京2020大会)

スポーツの祭典だけでなく文化の祭典でもある東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を通じて、郵便切手類が持つ文化的価値を広く社会一般に認識してもらうため、「スポーツ切手大集合!」展を東京都台東区(2021年4月)で開催した。また、東京2020大会をレガシーとして未来に継承するため、東京2020大会の郵趣品記念品制作に携わるとともに、東京2020大会に関する郵便切手類の保存・記録に取り組んだ。

※東京2020応援プログラム[認証事業]

6. 流通促進事業

文化的及び歴史的資料として貴重な国民的財産である郵便切手類を拡散・劣化させることなく、次世代

へ着実に継承するため、流通促進事業を実施した。

（1）流通促進の基盤整備

郵便切手類の偽造品・変造品の不正流通を防止するためにさまざまな対策をとり、郵便事業に対する信認を確保するため、偽造品・変造品に関する情報をデータベースとして蓄積するとともに、郵便切手文化の保全と健全なる市場の形成を図り、広く利用者の便宜性と拡大に努めた。

（2）公開入札制度〈JPSオークション〉

公正かつ厳格なマネジメントによる公開入札制度を通して、郵便切手文化を広く一般社会に敷衍するとともに、郵便切手類への不当な投機的流通を防止し、郵便切手類の価値の公正化を図った。

①第533回　締切日：4月24日（土）、会場：東京都立産業貿易センター台東館（台東区）

②第534回　締切日：7月13日（火）、メールオークション

③第535回　締切日：8月28日（土）、パシフィコ横浜アネックスホール（横浜市）

④第536回　開催日：11月6日（土）、会場：東京都立産業貿易センター台東館（台東区）

⑤第537回&538回　締切日：2022年2月5日（土）、会場：切手の博物館（豊島区）

出品総数:6,383ロット（前年度7,630ロット）、落札総高:53,400千円（同47,768千円）。

7．顕彰事業

日本及び世界各国の郵便切手類及び郵便制度に関して、その普及啓発並びに調査研究に貢献した功労者（個人及び団体）を顕彰し、郵便切手文化の振興と水準高度化を図った。

（1）選考委員会

各授賞要項に基づき各選考委員会を設置するとともに、選考基準に基づき授賞者を選考した。

①第42回中島健蔵・水原明窗記念賞

中島健蔵・水原明窗記念賞選考委員会（委員長代行:大沼幸雄、委員:魚木五夫、落合宙一、福井和雄、山口充）を設置し、4月24日（土）に選考委員会を開催、受賞者に池原郁夫氏を決定した。

②国際大賞（トレーシー・ウッドワード記念賞）

顕彰選考委員会（委員長：池原郁夫、委員:荒木寛隆、大沼幸雄、落合宙一、正田幸弘、玉木淳一）を設置し、6月5日（土）に選考委員会を開催、国際大賞に準ずる国際賞の受賞者に、リトアニア在住のレオナス・ヴェルジュボラウスカス氏を決定した。

③第41回郵趣活動賞（個人部門、団体部門）

同上の選考委員会を設置し、次の通り決定した。

A. 個人部門:浅木福夫氏、嘉ノ海暁子氏、中尾トミ子氏、村岡博氏、吉賀紀義氏の5名

B. 団体部門:昆虫切手研究会、稲門フィラテリー

④第41回郵趣文献賞

同上の選考委員会を設置し、受賞文献に次の2文献を決定した。

「20式　現行切手ノススメ」（大村芳弘著）

「郵趣モノグラフ31　製造面から見た書状10円期の記念特殊切手」（永吉秀夫著）

⑤第38回小倉謙賞

第56回全国切手展JAPEX2021審査員会の審査員で選考委員会（委員長:石川勝己）を設置し、11月5日（金）に選考委員会を開催し、受賞者に川辺勝氏「ドラクロアの芸術と生涯」を決定した。

⑥第36回住野正顕賞

第56回全国切手展JAPEX2021審査員会の審査員で選考委員会（委員長:石川勝己）を設置し、11月5日itives（金）に選考委員会を開催し、受賞者に木戸裕介氏「Republic of Korea War Time Overprinted Difinitive series」を決定した。

⑦第1回手嶋康賞

第56回全国切手展JAPEX2021審査員会の審査員で選考委員会（委員長：石川勝己）を設置し、11月5日itives（金）に選考委員会を開催し、受賞者に加瀬嘉文氏「安房国・上総国・下総国の記番印」を決定した。

⑧登録支部・団体50周年特別表彰

特別表彰の選考にあたり、5月22日（土）に事業執行会議（議長：池原郁夫）を開催し、2021年度の表彰に大阪南支部、土浦支部の2団体を決定した。

（2）授賞式

表彰は授賞式をもって行うとともに、選考結果は『郵趣』及びホームページにおいて公開した。

①第42回中島健蔵・水原明窗記念賞は、第56回全国切手展JAPEX2021において受賞者を発表するとともに、授賞式を公開で実施した。あわせて受賞記念講演を実施した。

②国際賞、第41回郵趣活動賞（個人部門、団体部門）及び第41回郵趣文献賞は、全国郵趣大会2021in横浜&関東郵趣大会2021in横浜において受賞者を発表するとともに、授賞式を公開で実施した。

③第38回小倉謙賞及び第36回住野正顕賞は、第56回全国切手展JAPEX2021において受賞者を発表するとともに、授賞式を公開で実施した。

④登録支部・団体50周年特別表彰は、全国郵趣大会2021in横浜&関東郵趣大会2021in横浜において受賞支部・団体を発表するとともに、授賞式を公開で実施した。

8．社会貢献・地域支援事業

郵便切手文化の発展向上に資するとともに「新しい公共」の担い手としての役割を推進するため、パートナー・サポート企業・団体との協働により広く社会一般に貢献する事業を行った。また、地域市民が行う郵便切手文化の公益的活動への助成や情報・ネットワーク支援を図るとともに、文化活動を担うボランティアの醸成と創造性豊かな人材育成に取り組んだ。

（1）「手紙を書こう！プロジェクト2021」

あらゆる世代において郵便切手文化に触れ合う機会を創出し、手紙コミュニケーションの楽しさを体験してもらうとともに、生き生きとした心豊かな社会の実現を目指していくため、日本郵便(株)をはじめとした多様なパートナー・サポート企業・団体の協賛を得て実施した。

①ゆうびんde自由研究・作品コンテスト2021(第10回)

郵便切手類の歴史や文化を身近に感じ親しんでもらうため、小学生児童を対象にして、郵便に必要な切手、消印を題材にした自由研究作品(切手部門、風景印部門)を公募した。郵便切手と郵便消印を題材として、夏休みの自由課題として取り組んでもらえるように教育機関等への周知に努めた。

発表会：8月25日（水）～8月30日（月）、会場：パシフィコ横浜／展示ホールB・C（横浜市）、後援：文部科学省、横浜市、横浜市教育委員会、豊島区教育委員会、（公社）日本PTA全国協議会、tvk、神奈川新聞、読売KODOMO新聞、日本教育新聞社、特別協賛：日本郵便（株）、協賛：（一財）水原フィラテリー財団、（株）デサント、リソー教育グループ。応募作品：切手部門：11作品（2019年度27作品）、風景印部門：265作品（同180作品）、優れた作品にグランプリ及び特別賞（9協賛企業・団体）を授与した。

※NIKKYO教育支援プラットフォーム参画

②タイムカプセル郵便

手紙コミュニケーションの楽しさを体験してもらうとともに、その時代の文化を未来にレガシーとして継承するため、メッセージとなる記録を手紙というツールを通じて、最大10年先まで保管して郵便として届けた。また個人の利用に加え、企業や行政の記念事業として利用拡大を図るとともに、日本郵便（株）をはじめとしたパートナー・サポート企業・団体と協働して普及を図った。

募集期間:4月1日(木)～2022年3月31日(木)[通年]、引受通数:25,947通(前年度24,045通)、協賛:日本郵便(株)、(一財)水原フィラテリー財団、リソー教育グループ。

※日本郵政(株)の商標登録の使用許諾事業

③Otegamiフリマ

フリーマーケット形式のイベントとして広く郵便切手雑貨関連のブース出展を募り、郵便切手文化の魅力を再発見してもらうため、お手紙コーナー及びデコレーションポストの設置、郵便局臨時出張所による記念押印サービス等を計画したが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため多くが中止となった。

A. Otegamiフリマ2021 SUMMERコレクション　会期:5月14日(金)・15日(土)、[中止]

B. Otegamiフリマ2021 AUTUMNコレクション　会期:9月17日(金)・18日(土)、[中止]

C. Otegamiフリマ2021 WINTERコレクション　会期:11月26日(金)・27日(土)、来場者800名。

D. Otegamiフリマ2022 SPRINGコレクション　会期:2022年2月20日(金)・21日(土)、[中止]

会場:いずれも切手の博物館(豊島区)、共催:(一財)水原フィラテリー財団、協賛:日本郵便(株)、リソー教育グループ。

④手紙ワークショップ

手紙が本来持っている「想いを伝える力」や新たな手紙コミュニケーションの魅力を再発見してもらうため、手紙を書いて、宛名を書き、切手を貼り、郵便局臨時出張所で小型印等の記念押印をしてもらい、郵便ポストに投函するという一連の流れを体験してもらう手紙ワークショップを計画したが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため多くが中止となった。

A. うでピタバルーンdeおたより書こう！

実施イベント:「ぽすくまと仲間たち うでピタバルーン」の無料配布、会期:11月26日(金)・27日(土)、会場:Otemamiフリマ2021 WINTERコレクション(1回)。

B. クリスマスポストカードdeお手紙書こう！

実施イベント:切手デザイナーによるオリジナル・クリスマスポストカードの制作・頒布、会期:12月4日(土)～12月25日(金)、会場:切手の博物館(豊島区)、参加者1,000名。協賛:日本郵便(株)、(一財)水原フィラテリー財団、リソー教育グループ。

(2)登録支部・団体制度と地域文化活動の支援

郵便切手文化の普及の担い手である市民文化活動の振興を図るため、登録支部・団体制度を活用して連携・強化を図り、各地域における自主的活動や特性を発揮しながら効果的な事業が推進できるように支援した。

①地域における郵便切手文化に関する研究発表、作品解説への講師派遣

地方本部及び登録支部が主催するイベントに、講師の派遣を行った。

②地域が取り組む展覧会及び切手教室への助成

登録支部・団体が開催した延べ11回の展覧会への助成を行った。

③郵便切手文化活動への広報協力

『郵趣(YUSHU)』及び協会ホームページにおいて、地域が取り組む郵便切手文化活動の広報に努めた。

④地域文化活動の活性化及び企画プログラムの提供

地方本部及び登録支部が主催するイベントに、企画展示の作品斡旋、紹介等を行った。

(3)パートナー企業・団体との協働プロジェクト

企業・団体と当協会が互いの特性や持てる資源を活かし合って、その取り組む課題やプロセスを共有し、協働するプロジェクトを計画したが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施できない企画が多数

あった。

①日本郵便(株)切手デザイナーとの手紙振興プロジェクト

A. 切手デザイナートーク

(a)テーマ:「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会切手」、ゲスト:玉木明氏。会期:4月24日(土)、会場:世界切手まつり スタンプショウ2021[東京都立産業貿易センター台東館(台東区)]、聴講者35名。

(b)テーマ:「和紙シール切手制作秘話」、ゲスト:貝淵純子氏。会期:8月28日(土)、会場:全国郵趣大会2021in横浜&関東郵趣大会2021in横浜[パシフィコ横浜アネックスホール(横浜市)]、聴講者60名。

(c)テーマ:「切手のウラ側～2021年の切手から～」、ゲスト:玉木明氏。会期:11月6日(土)、会場:第56回全国切手展[東京都立産業貿易センター台東館(台東区)]、聴講者65名。

(d)テーマ:「冬のグリーティング切手」、ゲスト:星山理佳氏。会期:12月24日(金)、会場:切手の博物館のクリスマス[切手の博物館(豊島区)]、聴講者20名。

B. 展覧会の審査員

フリースタイル切手展2021の審査員として、玉木明氏を招請した。審査日:2021年3月24日(水)、会場:切手の博物館(豊島区)。

C. 年賀はがき面白情報

年賀はがき、年賀状の差出に関心をもってもらうため、2022年用年賀はがきに関する面白情報の提供を受け、JAPEX2021(台東区)及び切手の博物館(豊島区)において展示・公開した。

②青少年ペンフレンドクラブ(PFC)との周知連携

日本郵便(株)発行の「Letter Park」紙面を利用して、展覧会等の開催周知の連携を図った。

(4) ボランティアの醸成

郵便切手文化に関する理解と関心を高めてボランティア活動への市民参画の促進を図るため、体験情報を発信し、支え合いの輪を広げる仕組み作りを推進した。

①郵趣のための押印講習会(技能認定制度)

押印講習会を6回開催するとともに、押印に関する専門的な知識を技術が優秀と認められた方への「押印認定書」(1級～3級)の授与を1名予定する。押印ボランティア登録者:17名、押印認定者:51名。

②展覧会運営ボランティアの公募

当協会の公式ホームページをはじめ、ボランティア募集を掲載するWEBサイト3社に登録して体験・情報提供を行い、支え合いの輪を広げる仕組み作りを推進した。

A. 4月23日(金)・24日(土)開催の世界切手まつりスタンプショウ2021に一般ボランティア15名の応募があり、延べ17名が運営ボランティアとして参加した。

B. 11月5日(金)～11月7日(日)開催の第56回全国切手展JAPEX2021に一般ボランティア16名の応募があり、延べ31名が運営ボランティアとして参加した。

(5) 公益活動への支援

様々な主体の参加を通して協働を促進する活動、営利を目的としない自主的・自発的な社会貢献活動である公益活動を担っている団体への支援を行った。

①切手バザール

(一財)水原フィラテリー財団主催の「切手バザール」の開催を支援した。会期:7月10日(土)・11日(日)、10月9日(土)・10日(日)、2022年1月15日(土)・16日(日)、2022年2月26日(土)・27日(日)、2022年3月26日(土)・27日(日)、延べ5回、会場:いずれも切手の博物館(豊島区)。

②全日本切手展2021 (第71回)

全日本切手展実行委員会主催の全日本切手展2021を後援、特別賞を授与した。会期:6月25日(金)～6月27日(日)、会場:すみだ産業会館(墨田区)。

③切手の博物館のクリスマス

(一財)水原フィラテリー財団と共催して、「切手の博物館のクリスマス」を開催した。会期:12月4日(土)～12月25日(土)、会場:切手の博物館(豊島区)。

④第25回目白ロードレース

目白ロードレース実行委員会主催の「第25回目白ロードレース」に協賛した。会期:2022年3月13日(日)、会場:学習院キャンパス周辺、［開催中止］

9．公益事業資金の造成

郵便切手文化の向上発展に資するとともに未来に継承する公益事業資金造成のため、協賛していただける企業・団体の募集、幅広く多くの方々に気軽にご支援いただけるよう、さまざまな形での寄付を募った。この益金は、広く社会一般に還元する事業のために充当した。

（1）パートナー・サポート企業・団体の募集

世界切手まつりスタンプショウ2021に対して12企業・団体(2019年度17企業・団体)、第56回全国切手展JAPEX2021に対して8企業・団体(前年度8企業・団体)から協賛、協力の支援を得た。

（2）使用済み切手、書き損じはがきの募集

募集期間:2021年4月1日(木)～2022年3月31日(木)、協賛件数:2,468件(同2,765件)。

（3）財政安定化寄附金（一般寄附金)

募集期間:2021年4月1日(木)～2022年3月31日(木)、協賛者:8名、1,728,987円(同5名、45,100円)。

（4）スタンプショウ2021寄附金（特別寄附金)

募集期間:1月5日(火)～5月31日(月)、特別寄附金:19口(1口3万円)、一般寄附金:316口(1口4,000円)、協賛者:274名、1,837千円(同220名、1,657千円)。

（5）JAPEX2021寄附金（特別寄附金)

募集期間:7月1日(木)～11月7日(日)、特別寄附金:41口(1口3万円)、一般寄附金:462口(1口4,000円)、協賛者:398名、3,087千円(同416名、2,829千円)。

（6）JPS創立75周年寄附金（特別寄附金)

募集期間:2月1日(水)～6月30日(金)、協賛者:259名、446口、1,787千円。

（7）紺綬褒章「公益団体」の認定

総務省を通じて紺綬褒章の授与対象団体となる登録申請を行い、12月10日付けで内閣府賞勲局より紺綬褒章の授与申請を行うことのできる公益団体として認定された。

Ⅱ　管理部門

1．会員事業

情報提供サービスの充実と会員のサポートが図れるような施策を実施し、そのメリットを高めていくことにより、会員の維持・拡大を図った。

（1）会員の維持・拡大

当協会の事業内容の紹介活動を積極的に行うとともに、新規会員獲得に向けたキャンペーン活動を強化する。また退会防止に向けて、魅力ある会員サービスを積極的に提供した。

①春の入会キャンペーン&WEB会員入会キャンペーン

実施期間:4月1日(水)～6月30日(水)、入会者:18名(うちスタンプショウ2021会場4名)。

②夏の入会キャンペーン&WEB会員入会キャンペーン

実施期間:8月25日(水)～8月30日(月)、入会者:日本国際切手展2021会場にて3名。

③秋の入会キャンペーン&WEB会員入会キャンペーン

実施期間:10月1日(金)～12月24日(金)、入会者:21名(うちJAPEX2021会場6名)。

④口座振替登録キャンペーン

実施期間:9月1日(水)～12月24日(金)、登録者:39名(前年193名)。

⑤ご移籍のお願いキャンペーン(普通会員から正会員、正会員から維持会員への移籍のお願い)

実施期間:2022年2月1日(火)～3月31日(木)、移籍者:2名(前年0名)。

⑥『正会員会報』月刊／12回発行

（2）定期刊行物の維持・拡大

学術研究成果や郵趣最新情報を広く還元できる体制作りを図るため、割引特典の優遇措置を提供する等、定期購読者の利益に供するキャンペーン施策を実施した。

①『郵趣研究』購読者拡大キャンペーン

実施期間:4月1日(水)～6月30日(水)、クレジットカード登録者:35名、新規購読者20名。

②『郵趣ウィークリー』購読者拡大キャンペーン

実施期間:11月25日(木)～12月24日(金)、新規購読者:紙版1名、WEB版4名(前年10名)。

（3）会員情報管理システムの整備

会員情報を組織的に適正に管理してデータの円滑な利活用を行うため、会員情報管理システムを整備するとともに、事務の簡素化・効率化及び情報提供サービスの高度化を推進した。

2．交流事業

心豊かな潤いのある社会創造の理念に基づき、会員相互の交流と親睦を深めるとともに、郵便切手文化を国民の資源として共有・活用できる基盤作りを図った。

（1）日本郵趣協会創立75周年記念祝賀会［準備作業］

特別功労者表彰を実施して会員への感謝の気持ちを伝えるとともに、パートナー企業・団体との関係強化を図り、郵趣の活性化と社会的認知度の向上を目指した。会期:2022年4月23日(土)、会場:帝国ホテル・本館「富士の間」(千代田区)

（2）新春交歓会

①東京･新春交歓会2022

会期:2022年1月8日(土)、会場:アンジェロコート東京(豊島区)、参加者40名(2019年度75名)。

②大阪･新春交歓会2022

会期:2022年1月11日(月･祝) 、会場:ホテルグランヴィア大阪(大阪市)、参加者19名(同47名)。

（3）地方本部主催の郵趣大会

①東北郵趣大会2021in山形（第30回）

会期：6月6日（土）・7日（日）、会場：ヒルズサンピア山形（山形市）、主催：北海道・東北地方本部、［中止］

②関東郵趣大会2021in横浜（第37回）

会期：8月28日（土）、会場：パシフィコ横浜アネックスホール（横浜市）、主催：関東地方本部、参加者76名（同88名）。

③北海道郵趣大会2021in札幌（第36回）

会期：10月9日（土）・10日（日）、会場：ホテルサンルートニュー札幌（札幌市）、主催：北海道・東北地方本部、［中止］

（4）コミュニティ通貨「フィラ」

お金では表せない「善意」を交換するコミュニティ通貨「フィラ」の普及拡大と流通促進により、ボランティア活動の活性化を図るとともに、郵便切手文化サービスの循環によって生き生きとした心豊かな社会の実現を目指した。発行数:35,427枚、流通数:515枚（流通率1.5%）。

2021年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

2022年6月

公益財団法人　日本郵趣協会